退任あいさつ　>>>>>

地方創生に向けた県内企業への更なる技術の拠りどころをめざして

前所長　新村　孝善

3月末日をもちまして，36年間勤務しました鹿児島県を退職いたしました。その間９年間の大島紬技術指導センター勤務と3年間の県庁勤務を経験し，24年間当センターで研究員として地域企業への貢献をめざして仕事を続けて参りました。

特に，所長としての２年間では，工業技術センター創立30年周年記念事業を遂行できたことが感無量でした。工業試験場設立から数えて94年の歴史を引き継ぎ，県内企業の期待や信頼に応える工業技術センターをめざし，取組を進めて参りました。歴史と伝統の重圧をひしひしと感じました。本当に業界皆様のお蔭，諸先輩方のお蔭だったと感謝しております。

思い出としましては，大島紬技術指導センター時代，泥染めの研究で泥田に入って泥染めをしたこと，焼酎粕の利活用でメタン発酵などの生物処理で土日もなく毎日微生物を管理していたこと，バケツと杓子と計測装置を持って食品工場の排水処理現場を数多く回ったこと，排水講習会での講演や鹿児島大学での講義など，人前で話す機会も多かったように思います。

職員生活の後半はマネージメントに携わるようになり，企業訪問や技術支援等を重点的に行ってきました。

予算や職員が減少する中，他県公設試との連携も推進して参りました。その取組として，鹿児島・神奈川工業技術交流事業がありました。また，九州・沖縄・山口県の公設試連携事業も着実に進めることができました。特に宮崎県工業技術センターとは今まで以上の連携をさせていただきました。南九州に位置し，食品工業に力を入れているなど進む方向性は一致するところも多く，今後の連携強化で互いのパワーアップが期待できます。

各種中小企業振興施策への対応としましては「JST研究助成事業」「ものづくり・商業・サービス革新補助金」への支援を積極的に行い，一定の成果をあげることができました。

さらに将来に向けた検討事項としましては，まず新規分野・新規課題への挑戦が挙げられます。CNFやファインバブル技術の新規展開のために新たな研究も始動しました。また，経済産業省は生産性革命と称してIoT・AI技術の普及に努めています。当センターも２年前から「ものづくりIoT研究会」を立ち上げて，鹿児島版「ものづくりIoT」を模索してきました。今後も推進して欲しいと思います。

次に，大型プロジェクトの立ち上げにおいては，シラスの全量をコンクリート材料として活用する研究を，県・大学・支援機関等の協力を得ながら必要機器の整備と研究連携を進め，大型プロジェクトとして始動し，コンクリート用火山ガラス微粉末のJIS化をめざしています。

また，当センターの保有技術である「鍛造」はサポイン事業にも採択され，防水型コネクタの鍛造法と成形機の開発に取り組んでいます。今後の実用化に向けて大いに期待できます。

マスコミ発表も積極的に行いました。最近では分級シラス，乾燥酵母，入れ歯磨き器デンチャーブラシなどを報道発表し，県民にPRしました。

今，地方創生が叫ばれています。そのためには地域の企業が元気になって地域を牽引していかなければなりません。当センターの「県内企業の技術の拠りどころ」としての役割は益々重要となります。これからも，当センターが地域にインパクトを与えるような，存在感を示すような活躍を期待しております。

36年間誠にありがとうございました。